

特集「英語教育はどうあるべきか」 Part 2

「<読む・書く>コミュニケーション能力」の育成

高梨 庸雄

(弘前大学教授)

1. はじめに

新学習指導要領で「書きことば」にかかわる Reading と Writing の目標は、4 技能の目標すべてに共通の「慣れ親しむ」と「初歩的な英語」を除くと、「書き手の意向などを理解できる」と「自分の考えなどを書くことができる」ことである。換言すれば、書きことばにおける双方向コミュニケーションである。もっとも、Reading では書き手と直接コミュニケーションできる場合はまれで、間接的なものにならざるをえない。教育的にはそこに open-ended questions で授業を展開できるおもしろみがある。

2. リーディング - トップダウンとボトムアップの併用 -

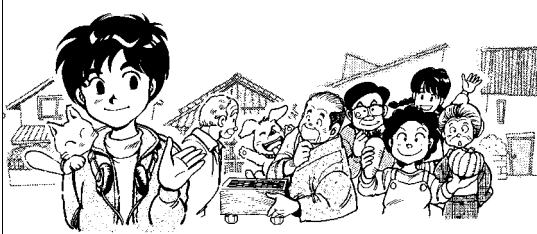
新学習指導要領の言語活動に「物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること」がある。教科書の文を一語一語逐語訳で意味をとっていく bottom-up の方法では、「あらすじ」や「大切な部分」がなかなか見えてこない。森の中で樹木を一本ずつ見て歩いたのでは、森の全体像は見えてこない。へたをすると樹海の中で方向を見失うことにもなりかねない。

しかし top-down の読み方を中学 1 年生にいきなり指導するのは無理である。2、3 年生になっても英語力の低い生徒には難しい。bottom-up の読み方も十分にできない生徒に top-down を強いるのは無謀である。一般にかなり英語力のすぐれた人でも、文章の内容や難易度によっては top-down と bottom-up を併用しているのが普通である。英語力によってその比率が異なるだけである。bottom-up を悪者扱いにして top-down だけをお題目のように唱えるのは生徒の実態に即した指導とはいえない。むしろ bottom-up の指導からどのようにして top-down の指導に近づけるかを工夫することが大切である。NEW CROWN 1 年 7 課セクション 1 を見ながらその方法を考えてみよう。

ここで繰り返し使われている単語は Sundays であ

LESSON 10 On Sundays

Ken の家族はそれぞれみんな楽しい日曜日を過ごしているようです。今日はトムも遊びに来るようになりました。




What do you do on Sundays?

My family enjoys Sundays. I listen to music. Sometimes I swim with my friends.

My father often cooks on Sundays. He is in the kitchen now. He is making bread for us.

Look at my grandfather. He is playing *shogi* with his friend.



1. Does Ken sometimes swim on Sundays?
2. Who cooks on Sundays?

He plays tennis every day.
He is playing tennis now.

listen kitchen make bread us

sixty-nine ● 69

Book 1, LESSON 10 1

る。この課の表題が On Sundays であり、このセクションの主題に関連する語が Sundays だからである。このようにひとつのセクションに数回出てくる語句(まったく同じ場合も 代名詞や同意語の場合もある)は、その文章で重要なものであるから、生徒には同じ内容を表している語句に注意させることが、top-down 読みを指導する第一歩である。冒頭の文は読者(生徒)の興味・関心を引くためのもので、スピーチでもよく使われる attention-getting である。2 番目の文が主題文(topic sentence)で、その後続く 7 つの文は、主題の具体的な内容を述べている。Ken に関しては 2 文、Ken の父については 3 文、祖父については 2 文を使って、日曜日の楽しみ方を描いている。つまり Ken、父、祖父に関する文は主題文の話題

(topic)を発展させたものであるから、My family enjoys Sundays. という文を屋根にたとえれば、その後続く文は屋根を支える柱のようなものである。支持文(Supporting sentences)といわれるのはそのためである。個々の文の中で意味を理解する作業がbottom-upであり、段落全体の中で、主題文と支持文の関係を読みとる作業がtop-downである。

3. ライティング - 指導プロセスの柔軟性を -

従来、4技能の指導順序はL(listening) S(speaking) R(reading) W(writing)という図式である。これは新出言語材料については正しいが、授業がL S R Wという固定観念にしばられて、Writingの指導がいつも後手に回り、結果的に、授業で導入された文型・文法練習の単なる補強に終わっていることが多い。語学教育においては便宜上4技能に分けて考えられることが多いが、4技能が共有している要素もかなりあるのだから、授業においても複数の技能が相互補完の関係になるようにすることが大切である。その方法を考えてみよう。

Do you know anything about Wales? It is in the west of Great Britain. The people there love singing. The song they love the best is "Land of My Fathers". It is a song about their history and their language.

(Book 3, p.80)


これは第3学年 LET'S READ の導入の段落である。波線を施した語句は内容上同じもの(Wales)であり、各文をトピックのWalesに結びつける重要な役割をになっている。そのつながりを中心に要約するとWales is in the west of Great Britain and its people love singing, especially "Land of My Fathers".となる。

前節で述べたように、1つの段落で複数回出てくる語句は内容上重要なものである。英文を暗唱させる場合、ただやみくもに反復練習させるのではなく、段落の流れ(discourse)の中で重要な語句を意識させながら暗唱させるのである。たとえば、教科書を閉じておいて、板書あるいはOHPで投影した重要語句を見ながら教科書の文を再生する訓練をする。こうすると、その重要語句がそれを含む文全体を想起するときの足がかりになる。

この練習を最初に試みるときには、教科書の文章をTPシートにコピーして、奇数行の文は最初の2,3

LET'S READ 3
Language
 — Life of a People



ウェールズ民族は英国を構成している民族の一つですが、現在その人口のおよそ19%しかウェールズ語を話すことができません。なぜそのようになったのか、民族にとって「ことば」とは何なのか、考えてみましょう。



Do you know anything about Wales? It is in the west of Great Britain. The people there love singing. The song they love the best is "Land of My Fathers". It is a song about their history and their language.

When some pubs close at night, people begin to sing "Land of My Fathers". They never forget their unhappy history.

1. ウェールズはどこにありますか。
 2. ウェールズの人たちが好んで歌う"Land of My Fathers"は何についての歌ですか。

	west	西	pub	パブ	unhappy	不幸な
	[west]		[pʌb]		[ʌnhəpi]	

80 • eighty

Book 3, LET'S READ 3

語、偶数行の文は最後の2,3語が見えるようなマスキング(TPシートの語句を部分的に被うもの)をやって、1文の中で残す語句を比較的多めにしたほうがよい。

4. リーディングから他の技能へ

前節で述べたような方法で、文章中の重要語句がどんな順序で出てくるのか、お互いにどんなつながり方をしているのかに生徒が気づくように指導する。各文の重要語句から文全体を想起することに慣れ親しむ過程で、スピーチはただ丸暗記するものではなく、重要語句をメモ代わりにして、顔を聴衆に向けて行うものであることを学ばせたい。英文を繰り返し読むことが英語習得に役立つことは、最近いくつかの研究で指摘されており、言語習得における朗読の重要性に新たな関心が寄せられている。しかし中学生に「ただひたすら読め」と言っても指導したことにはならない。授業の中で、教科書の文章を例に重要語句が何かを問いかけながら理解させ、それらが文の中で強勢を受けることを気づかせ、重要語句を手がかりに文を想起しながら、自分でスピーチ

しているように読む指導をすることが大切である。

多少改まった場でのスピーチでメモを持って話すのは決して悪いことではない。スピーチ原稿をただ読むよりも、はるかにスピーチの作法にかなっている。メモなしで流暢にできる人もいるが、そういう人も修行時代には上に記したような方法も活用しながら地道に努力したのだということを忘れないでいただきたい。

5. ライティングにおけるイメージ・マッピング

Book 3 の LET'S WRITE 2 は修学旅行がテーマである。教科書の例は、いわば「型」であって、その型をもとに練習して文章の構成法を学ぶのである。「学ぶ」過程に「真似る」段階が入ってくるのは自然なことである。しかし「型」は所詮「型」であって自分の文章ではない。モデル文を部分的に少しずつ変えたり置き換えたりしながら、自分の考えを入れていくのである。LET'S WRITE はそのプロセスに基づき、教科書の見開き 2 ページにわたって展開している。

修学旅行は学校によってコ - スの取り方が違って

くる。したがって「修学旅行の記録」も学校によって少しずつ違うであろう。生徒に修学旅行についてどんなことを書きたいかいろいろ意見を出させる(ブレイン・ストーミング)。グループ学習でやるなら各班に和英辞典を貸与し教室に常備しているのが理想)生徒が使いたい単語を調べさせたり、教師が手助けしてやったりして、自分たちが書く(描く)イメージを膨らませていくイメージ・マッピング(最近では Webbing ともいう)が効果的である。

最近の児童・生徒は、自主性に欠けると指摘されることが多いので、生徒自らが考え、感じたことを書かせるためにも、上記のように生徒が主体的に取り組むような学習形態を工夫したい。


LET'S WRITE
2
修学旅行

修学旅行の思い出をもとに英語の新聞を作ってみよう。


Step 1

下のモデル文にはどんなことが書いてありますか。まず絵を参考にして考えてみよう。


①どこへ行きましたか?



②見学場所はどこですか?



③感想・印象は?




3-A TIMES

Thursday, July 3, 1997 Terada Akiko

School Trip To Kyoto

① We went to Kyoto on our school trip.
Ken, Yumiko, Hiroshi and Emi were in my group.
We had a very good time on the trip.

② On the first day we went to Kinkakuji Temple. Kinkakuji was built by Ashikaga Yoshimitsu in 1397. ③ It looked bright in the sun.



関連表現 **Words & Expressions**

① 自分たちの修学旅行の行き先 _____

② ~ Newspaper Office ~ 新聞社 ~ TV Station ~ テレビ(放送)局
~ Baseball Stadium ~ 野球場 ~ Art Museum ~ 美術館

③ Everyone looked busy in that office. その会社ではみんな忙しそうでした。
The stadium was big and full of people. スタジアムは大きく、人がいっぱいでした。
I saw many works of art. They were impressive.
多くの作品を見ました。それらは印象的でした。

【その他の表現】
go to Kyoto on the Shinkansen 新幹線で京都に行く
sightseeing bus 観光バス
We were free in the afternoon. 午後は自由行動でした。

Step 2

モデル文の の部分を、上の「関連表現」を参考にして、自分のことかえて書いてみよう。

① _____

② _____

③ _____


④ **プラス・アルファ**

モデル文全体を、上の「関連表現」も参考にして、自分のことかえて書いてみよう。

TP Times タイムズ(新聞の名前) temple 寺 bright カがやいて

[taɪmz] [ˈtɛmpəl] [braɪt]

have a good time 楽しいときを過ごす



thirty-five ● 35